

東京オリンピックが開幕しそうですね。関係者や選手にとつては、本当に「いよいよ」「ようやく」という思いでしょう。「コロナを乗り越えた祭典」が理想でしたが、相手が手強かつたのか、こちらの手が足りなかつたのか。のちに歴史となる頃、本当の答えが語られるでしょう。

いずれにしても、4月21日に子どもたちが託した一人一人の夢は無事メイン会場に届き、大会を見守ることになりそうです。今から57年前のようすに、全国一齊に中継に釘付けになることもないでしようが、せつかくですから家族一緒に見て、感動を共有できるといいですね。

夏休みを迎える子どもたちには、コロナへの対策は続けながらも、夏休みだからこそできる学びや体験をして、心も体も成長する夏休みにして欲しいと思います。

毎月実施している「ほつとハート会議」。学級の子どもたちの様子を報告し合い、友だち間で悩んでいる子どもなどへどう支援するかを話し合う全職員による会議です。

大人でも人間関係に悩むことはありますが、たいていの人には「自分なりに割り切る」「異なる意見に折り合いをつける」ことで関係を保っています。

しかし、心も成長過程にある子どもは簡単ではありません。特に、気持ちの強い子ほどひとりで苦しんだり、時には相手に気持ちを強くぶつけたりしてトラブルを招きます。「○○の言うことは間違ってるんだ。」「○○ちゃんの方が悪い。」といつまでも気持ちを収めることができません。その意見が正当であればあるほど我慢ができないほど苦しむのです。不満の矛先が相手に向かっている間はなかなか解決できません。

6月の「ほつとハート会議」では教育委員会から指導主事の先生とスクール・ソーシャル・ワーカー（心理士）を招いて、子どもの心を開く教育相談の方法について全職員で学びました。では、その一端をご紹介します。

この手法には、「三つの家」という名が付いています。

第一の家は、「楽しい家」

子どもの思いつくままに楽しいこと、好きなことを話してもらいます。そうしているうちに心がほぐれ、子どもの心が開いてきます。また、話に夢中になる様子から、今、何が一番楽しいと感じているかなどを探っていきます。

第二の家は、「心配の家」

今、困っていること、心配なことを聞き取ります。はじめは核心から外れることもありますが、丁寧に聞き取るうちに原因が見えてきます。

心配の元を解決するために「〇〇して欲しい」「〇〇したい」と、多少わがままに思える希望もそのまま聞きます。もし解決できるものは、その場で叶えてあげます。優先順位を考えさせて、どうしたら叶うか考えさせます。場合によつては、希望を叶えるためのルールを自分で考えさせます。さらに、そのルールが守れなかつたときの決まりも考え方、目につく所に貼ります。

このような流れをとおして自己の生活や行動に目を向させ、問題の解決を図るための行動の変容へと導きます。

「〇〇のせいだ。」「〇〇が変わらぬいうちは変わらない」…と問題の原因を外だけに向けている間は、いつこうに問題の解決には向かいません。問題（心配事）を解決する希望は、自分の中にしかないと氣付いたときから解決が始まることでしょう。

自分の心の声に耳を傾ける

第三の家は「希望の家」 心配の元を解決するた

学校閉庁日について 8月10～13日は学校閉庁日です。この間、緊急に連絡が必要な場合（児童の事故等）は、市学校教育課（23-0424）まで連絡をお願いします。休業中、学校から連絡が必要な場合は、連絡メールを使用しますのでよろしくお願ひします。

学校スナップ

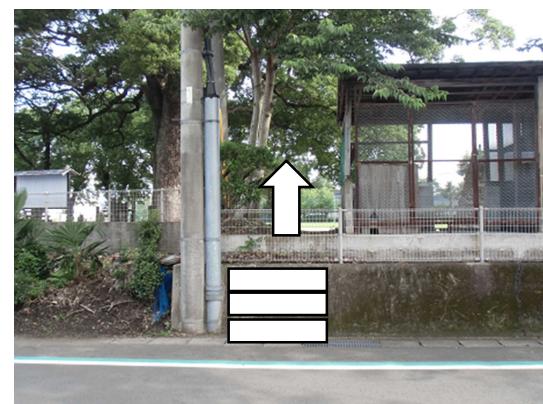
南保育園方向から東門に通じる道路が一部狭くなってしまっており、子どもたちの登下校の安全が気になっていました。そこで、狭い箇所を通らずに敷地内に入れるように、通用口を設けることにしました。

このことについては、先に PTA 予算からの支出をご承認いただき、加えて、南校区まちづくり協議会からの御支援により実現することができました。

工事は、夏休み中に完了を予定しています。



東門までの数十メートル手前で歩道が切れ、狭いところを通っていました。



写真の電柱とゴミ置き場の間のスペースに階段を設ける計画です。

お願い

県の通知に以下のような**自転車通行ルール（自転車安全利用五則）**が示されています。このなかでも、心配なのがヘルメットの着用です。他の地域に比べ、ヘルメットを着用している子どもが少ないように感じます。平成20年6月の道交法の改正から子どもにヘルメットを着用させることは、保護者の努力義務になっています。（道路交通法 第63条の10）。

みんなで子どもの自転車用ヘルメット着用を当たり前にしましょう。

- 1 自転車は車道が原則（歩道は例外）
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で車道寄りを徐行
- 4 交通ルールを守る
- 5 子どもはヘルメットを着用

